



東京文化発信プロジェクト

東京から生まれる新しい文化の波

平成 22 年 12 月 17 日
東京文化発信プロジェクト室
(公益財団法人東京都歴史文化財団)

【プレスリリース】

東京文化発信プロジェクト 1 月 開催プログラムのご案内

東京文化発信プロジェクトは、世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信、芸術文化を通じた子供たちの育成、多様な地域の文化拠点の形成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体、アートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベント、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、子供向けの体験型プログラムなどの事業を展開しています。

年間を通じ様々なイベントを通して「東京ならではの芸術文化の創造と発信」を行っていますが、年明けの 1 月に開催されるプログラムの中から、主要なイベントを 4 点、ご案内させていただきます。ご取材等、ご検討いただければ幸いです。

東京アートポイント計画

■ 『川俣正・東京インプログレス—隅田川からの眺め』

川俣正と地域住民がスカイツリーエリアに立てる塔 1 月に着工

世界各地でインターローカル(地域間)プロジェクトを展開する美術家・川俣正が、東京スカイツリーの登場などで景観が急速に変わりつつある東京に仕掛ける新プロジェクト、『川俣正・東京インプログレス』。

東京スカイツリーをのぞむ都立汐入公園に、約 10.7 メートルの木造の塔を、地域住民とともに手作りで建設するもので、そのプロセスと、自分たち自身の手で作上げた塔からの眺めを通じて、変遷する地域の過去と未来について考えるプロジェクトです。

平成 23 年 1 月、いよいよ塔の建設に着工します。2 月中旬以降、現場では塔の制作に参加できる各種ワークショップを実施予定。

建設期間は 3 カ月で、平成 23 年 3 月の完成を予定しています。



Photo:Masahiro Hasunuma
©Tadashi KAWAMATA



〔川俣 正〕

1953 年生まれ。

美術家、パリ国立高等芸術学院教授。

1977 年より活動をはじめ、28 歳の若さでヴェネツィア・ビエンナーレの参加アーティストに選ばれ、その後もドクメンタなどに参加し、欧米を中心に高い評価を獲得し続ける。また、「ワーク・イン・プログレス」というアートの文脈に収まらない独自の制作方法論を展開し、その活動領域は建築や都市計画、歴史学や社会学、日常のコミュニケーション、あるいは医療にまで及ぶ。



東京アートポイント計画

■ 『墨東まち見世 2010』

墨田区内の空き家で展開するギリシア劇「墨田区在住アトレウス家 Part2」

「墨田区在住アトレウス家」は、墨田区内の空き家を借り上げて、“そこにギリシア劇の一家がかつて暮らしていた”という設定で展開することで、地域の家やまちを再発見する演劇プロジェクトです。日本におけるドラマトゥルクの草わけである長島確が、墨田区の地域の人たちの参加・協力のもと、東京藝術大学や日本大学の学生を加えて、読書会やフィールドワークを重ねながら構成。今年度4本の作品を制作します。

実際の家屋の間取りや家屋の特徴などを手がかりに、ギリシアのアトレウス家の親子三代にわたる生活を具体的に想像し、数々の事件の痕跡をたどります。

7月に開催したPart1は、昭和の面影を色濃く残す空き家を舞台に、ソフォクレス作「エレクトラ」を題材として、母とその愛人の住む家で、殺された父の復讐を誓う、姉弟の姿を浮かび上がらせました。今回のPart2は、Part1の数年前、アトレウス一家の家族関係がまだ穏やかだった時代へと舞台を移します。正月を終えて間もない墨田区のまちなみを前に、のちの事件の予兆をはらんだギリシア劇の一家の「お正月」が展開します。

【開催概要】

日時：平成23年1月13日（木）～16日（日）予定

場所：旧アトレウス家（東武伊勢崎線「東向島」駅より徒歩8分）

フェスティバル事業

■ 『芸術監督セレクション』 チェーホフ生誕 150周年記念

タニノクロウ演出「チェーホフ?!」～哀しいテーマに関する滑稽な論考～ 1月に開演、連続サミットも開催 於:東京芸術劇場

19世紀末、ロシア文学界に革命を起こした劇作家、アントン・チェーホフ。その生誕150周年を記念して、タニノクロウ演出による「チェーホフ?!」が、1月25日（火）～2月13日（日）の期間、東京芸術劇場で上演されます。

医者でもあったチェーホフが遺した未完の博士論文で扱われていたのは、民間伝承や魔術といった一風変わった題材。幻想的イメージに満ちたこの草稿といくつかの小説から想を得て、元精神科医の顔を持つ演出家タニノクロウが個性的なキャストと共にチェーホフの妄想世界を具現化します。

また、『チェーホフ?!』のドラマトゥルク鴻英良氏による連続サミットを開催中。津野海太郎／扇田昭彦、岩松了といったゲストパネリストを招き、チェーホフ劇の軌跡を辿ります。



【開催概要】

■ 「チェーホフ?!」日程：平成23年1月25日（火）～2月13日（日）

※プレビュー公演 1月21日（金）、22日（土）

会場：東京芸術劇場 小ホール1

出演：篠井英介、毬谷友子、蘭妖子、マメ山田、手塚とおる

チケット情報：発売中

■ チェーホフ生誕150周年記念連続サミット

第2回「チェーホフ劇の展開」 日時：平成23年1月15日（土）14:00～16:00

ゲストパネリスト：津野海太郎／扇田昭彦

第3回「新たなるチェーホフ」 日時：平成23年1月29日（土）16:00～18:00

ゲストパネリスト：岩松了／タニノクロウほか

会場：東京芸術劇場 中会議室

参加費：無料

東京アートポイント計画

■「イザ！カエルキャラバン！ in 東京」

子どもが楽しく学べる新しい形の防災訓練プログラム 1/29(土) 多摩市で開催

子供を中心とする若いファミリー層を対象に、震災時に必要な「知識」や「技」を身につけてもらうための新しい形の防災訓練「イザ！カエルキャラバン！」を、1月29日(土)に、多摩市の関戸公民館で開催します。

消火器の使い方を学ぶ「水消火器でのあてゲーム」や、カエルの人形を毛布で運ぶ「毛布で担架タイムトライアル」、地震で家が崩れガレキの下敷きになってしまった人を救うためのジャッキの使い方を学ぶ「ジャッキアップゲーム」など、楽しみながら「消火」「救出」「救護」を体験するもので、阪神・淡路大震災の経験をもとに開発された防災アートプログラムです。



平成 21(2009)年より「東京アートポイント計画」の一環として「イザ！カエルキャラバン！ in 東京」を新たにスタートし、平成 22 年度は、東京都内で計 8 回の開催を予定しています。

【開催概要】

「イザ！カエルキャラバン！ in 東京 vol.7—多摩市」

日 時：平成 23 年 1 月 29 日 (土) 10:30~16:00

開催場所：多摩市立関戸公民館

<報道関係者からの問い合わせ先>

東京文化発信プロジェクト広報事務局 富樫／大原

電話：03-3818-2465 FAX:03-5689-0455 E-mail：tokyobunka@prinfo.co.jp